

HTLV-1の感染実態について

厚生労働科学研究 「HTLV-1の診断法の標準化と
発症リスクの解明に関する研究」(浜口班) 分担研究より

HTLV-1キャリアの全国調査について

調査方法・期間

- 2006、2007年の全国の初回献血者のHTLV-1感染率を調査した
- 得られたデータから全年齢でのキャリア率・キャリア数を推定した
- 1988年の同様の調査結果を再分析して比較した

[献血] 献血者全員にHTLV-1抗体検査が行われている
全国あまねく年間500万人以上を同一法で検査
献血年齢；16～64歳（調査時）

献血者でのウイルス感染症陽性率

	全献血者	初回献血者
HBsAg	0.073 %	0.63 %
Anti-HBc	0.66	1.59
Anti-HCV	0.087	0.49
Anti-HTLV-1 (凝集法)	0.17	0.37

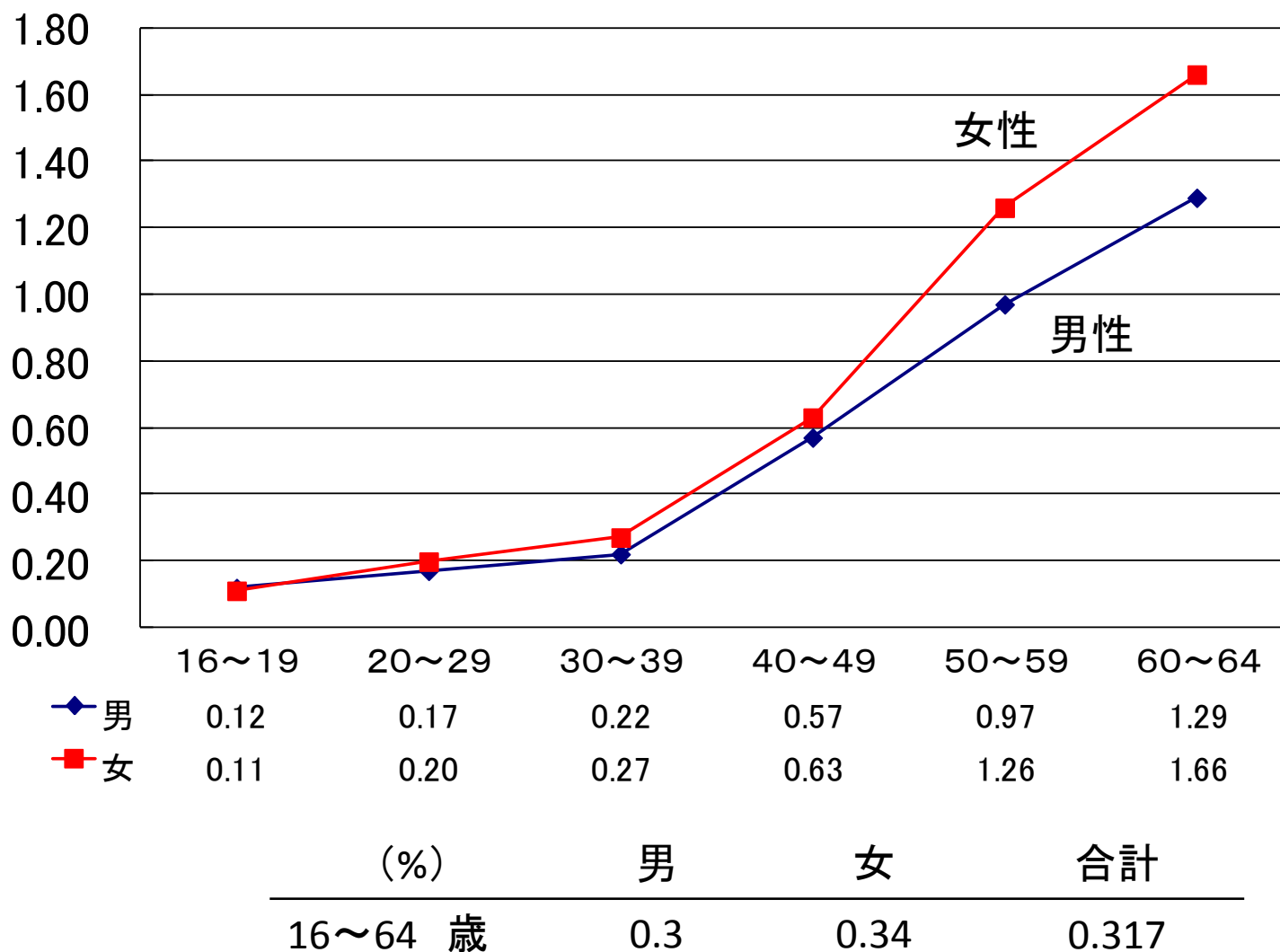
平成18、19年の全国の初回献血者…… 119万6千人

献血者のHTLV-1検査

スクリーニング ; particle agglutination (凝集法…非特異反応を含む)
確認検査 ; immunofluorescence (蛍光抗体法)

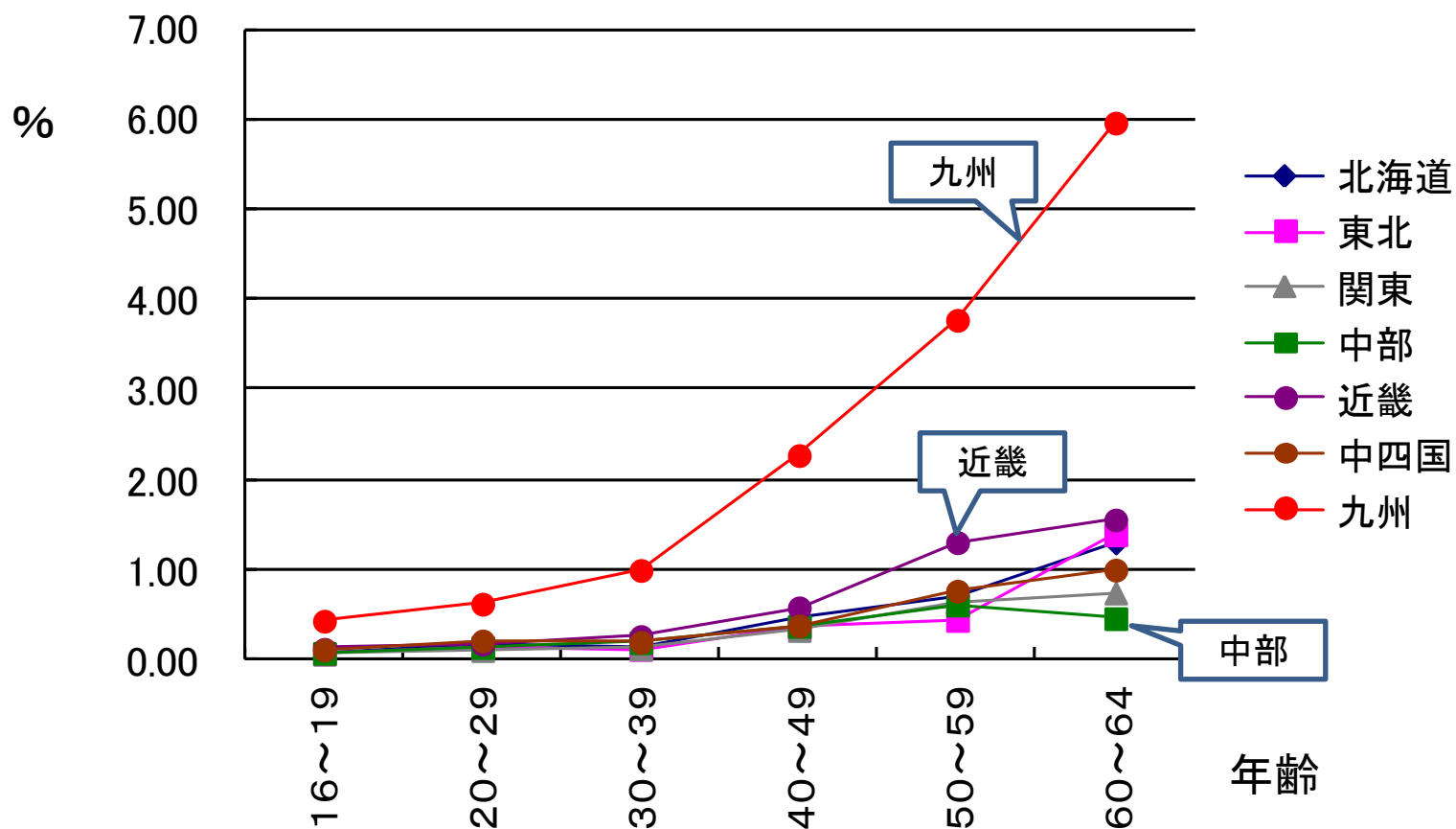
今回、確認検査陽性者をキャリアとした…………… 3,787人陽性
(0.317%)

献血者年齢別陽性率（全国 %）



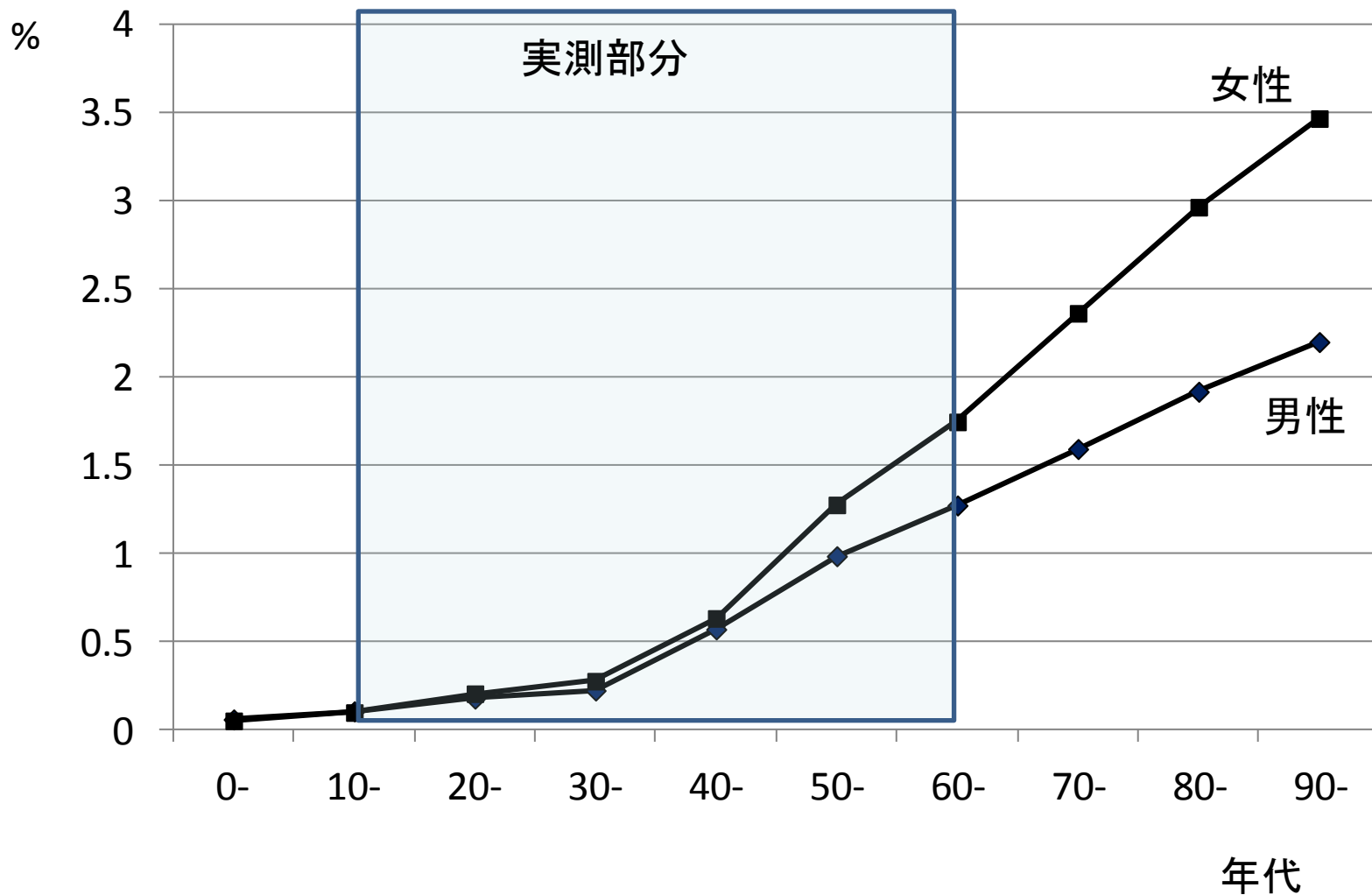
献血者地域別陽性率

(%)	男	女	合計
九州・沖縄	1.0	1.3	1.14
九州・沖縄以外	0.19	0.23	0.21



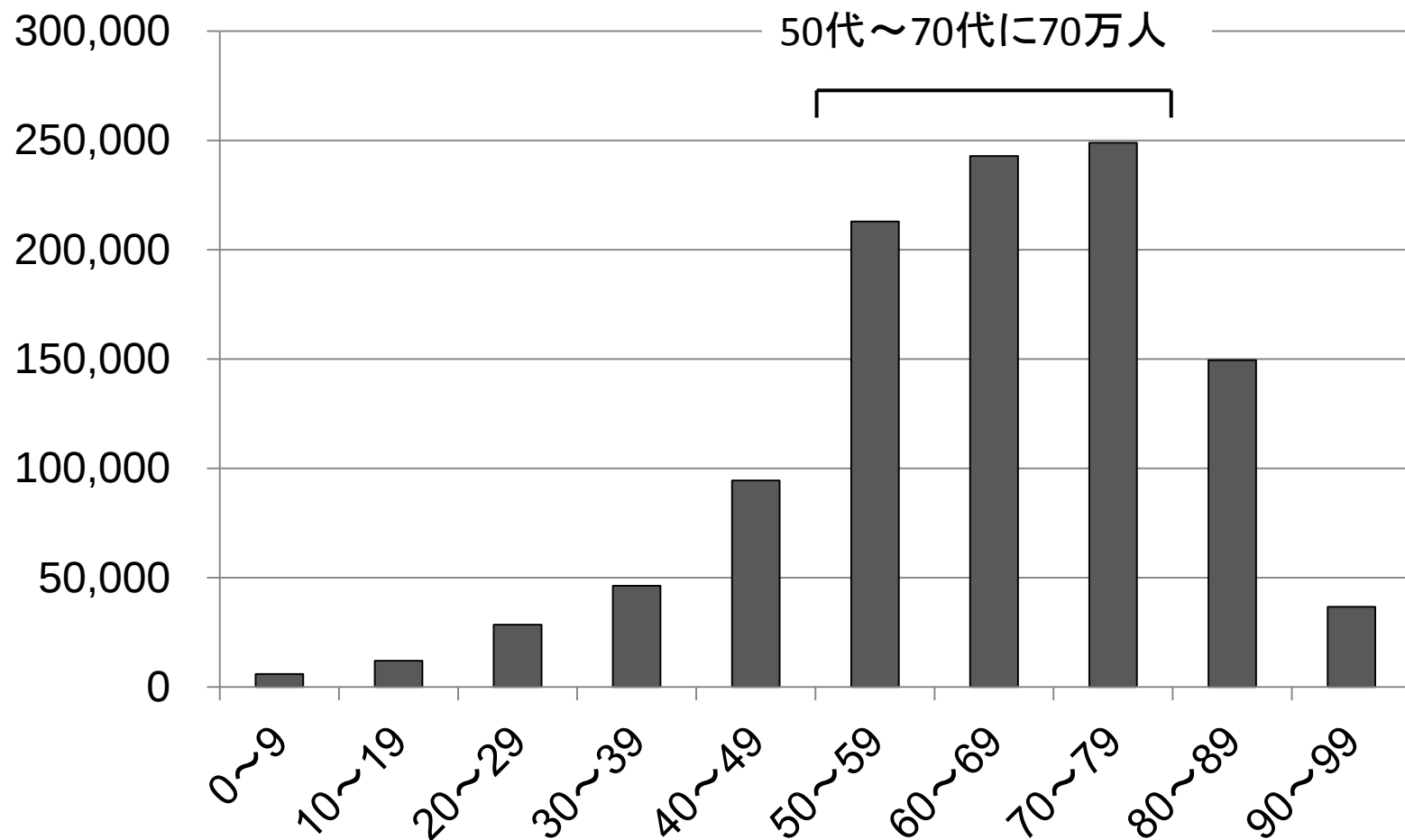
全年齡推定陽性率（0～99歳、2007年、全国）

65歳以上の人口については地方別に陽性率を直線的に外挿した



年齢別推定キャリア数（全国）

合計 108万人
全人口の0.85%



陽性率の高い県（％）

	男	女	男女
鹿児島	2.01	1.86	1.95
沖縄	1.57	2.43	1.80
宮崎	1.30	1.64	1.41
長崎	1.18	1.72	1.35
福岡佐賀	0.69	0.94	0.78
大分	0.57	0.88	0.68
熊本	0.48	0.83	0.62
大阪	0.39	0.53	0.45
高知	0.34	0.51	0.42
和歌山	0.35	0.52	0.42

島根、奈良、兵庫、愛媛……

陽性率の低い県

	男	女	男女
新潟	0.03	0.08	0.06
山梨	0.09	0.04	0.07
栃木	0.04	0.10	0.07
山形	0.06	0.09	0.07
群馬	0.06	0.10	0.08

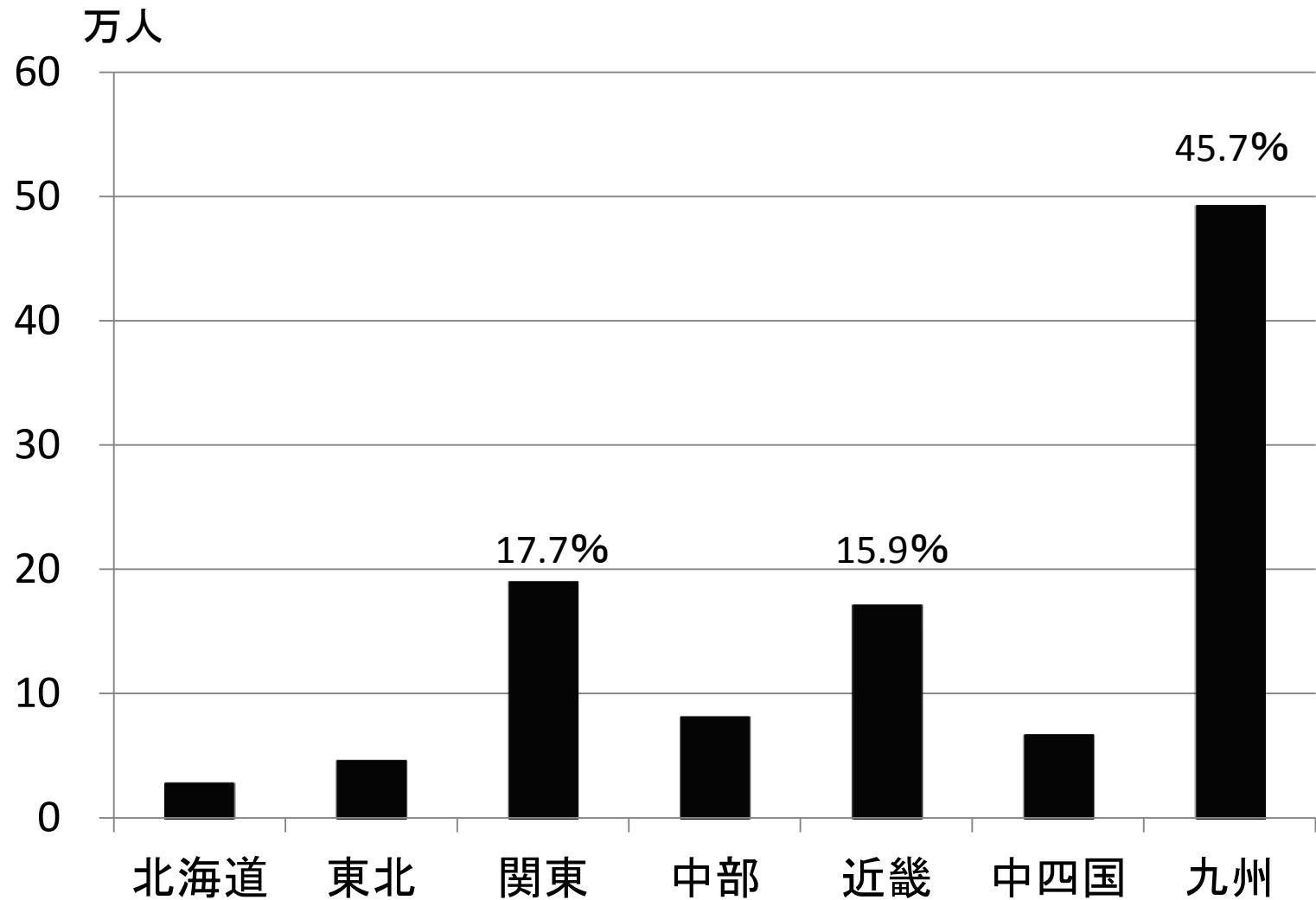
岐阜、香川、長野、福井……

東京 0.15 0.15 0.15

都道府県別推定キャリア数 (千人)

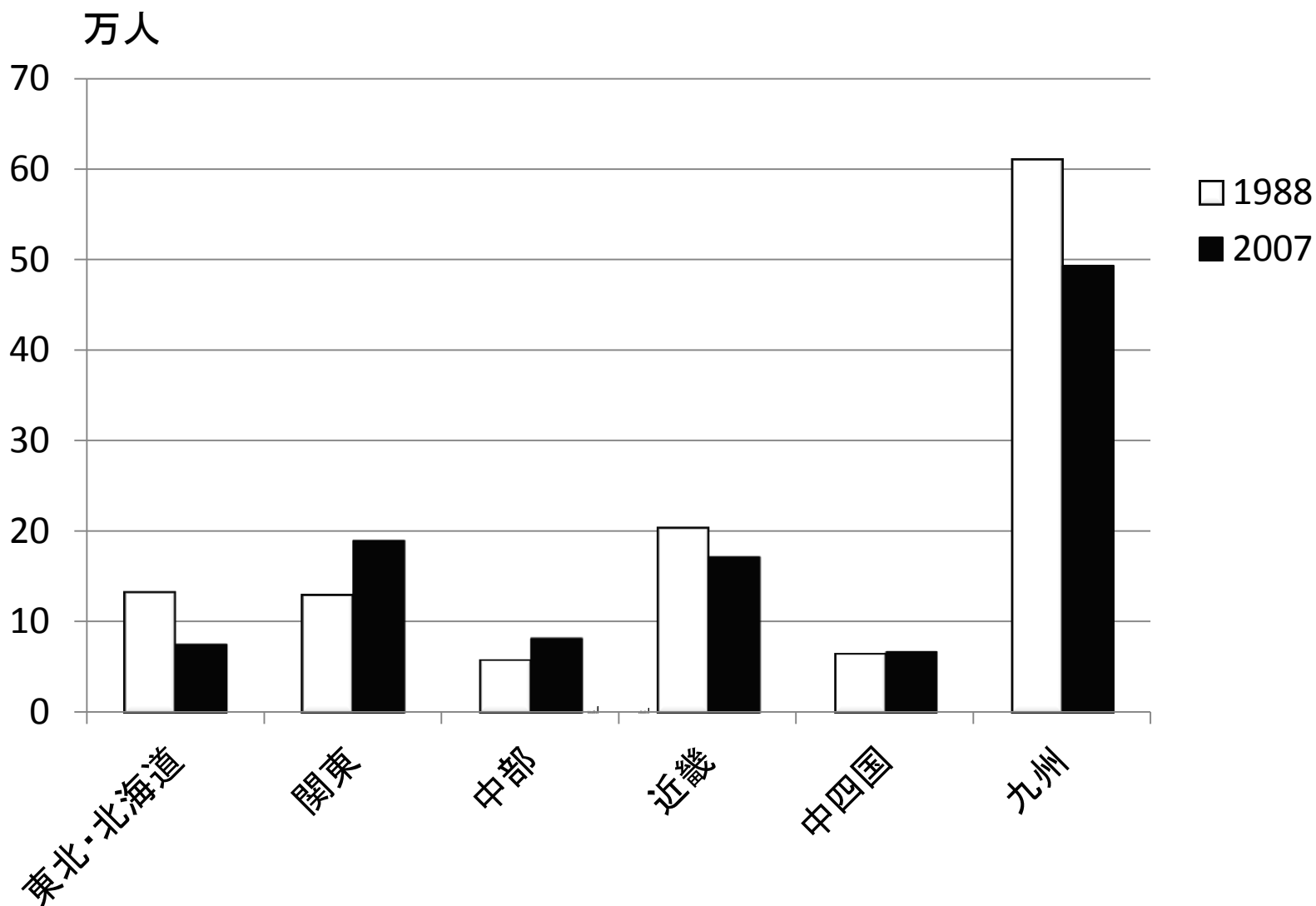
北海道	35.3	茨城	-	山梨	-
		栃木	-	富山	-
青森	-	群馬	-	石川	-
岩手	-	埼玉	30.4	福井	-
宮城	-	千葉	31.3	長野	-
秋田	-	東京	46.9	岐阜	-
山形	-	神奈川	43.1	静岡	-
福島	-	新潟	-	愛知	33.1
				三重	-
滋賀	-	鳥取	-	福岡	105.4
京都	-	島根	-	佐賀	-
大阪	93.6	岡山	-	長崎	56.7
兵庫	-	広島	-	熊本	-
奈良	-	山口	-	大分	-
和歌山	-	徳島	-	宮崎	-
		香川	-	鹿児島	105.4
		愛媛	-	沖縄	69.6
		高知	-		

地域別推定キャリア数（0~99歳） 108 万人

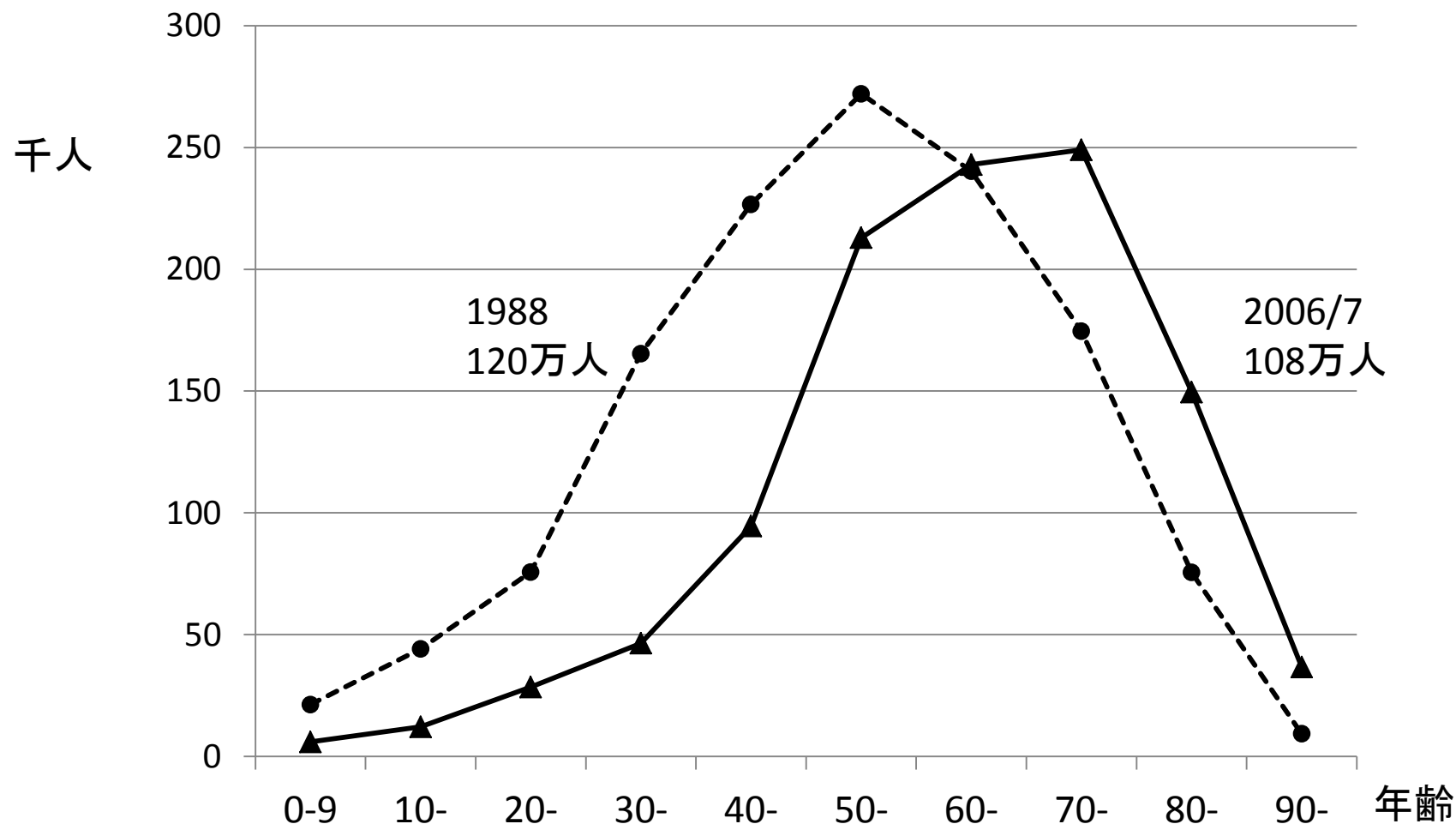


地域別キャリア数の推移

1988年と2006/7年の比較
(0~99 歳)



約20年間のキャリア数の推移

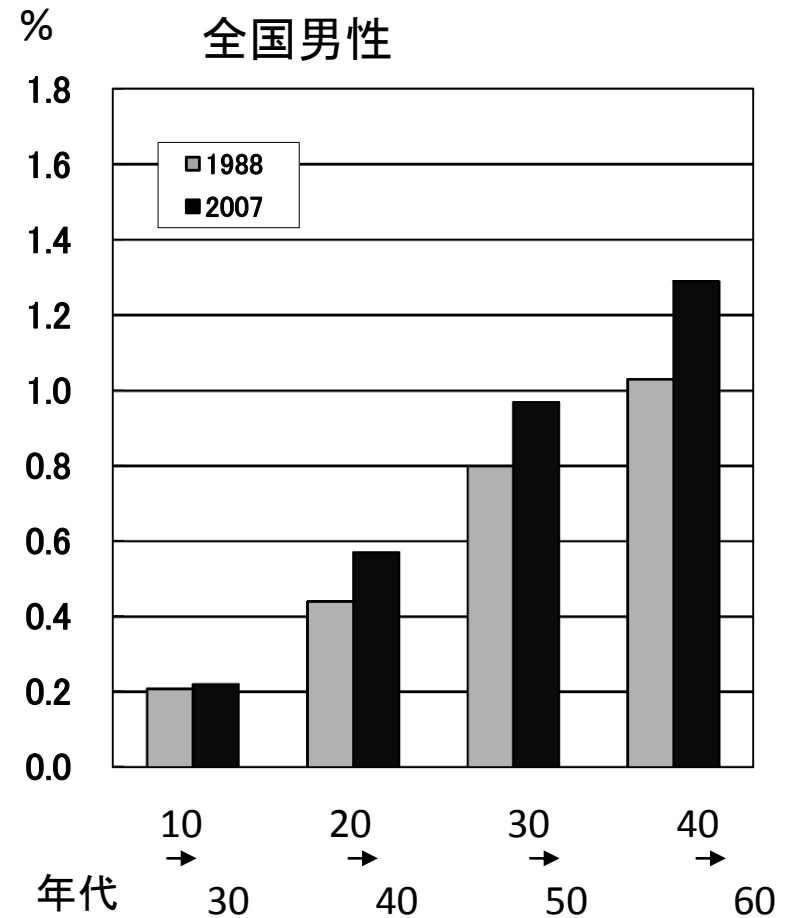
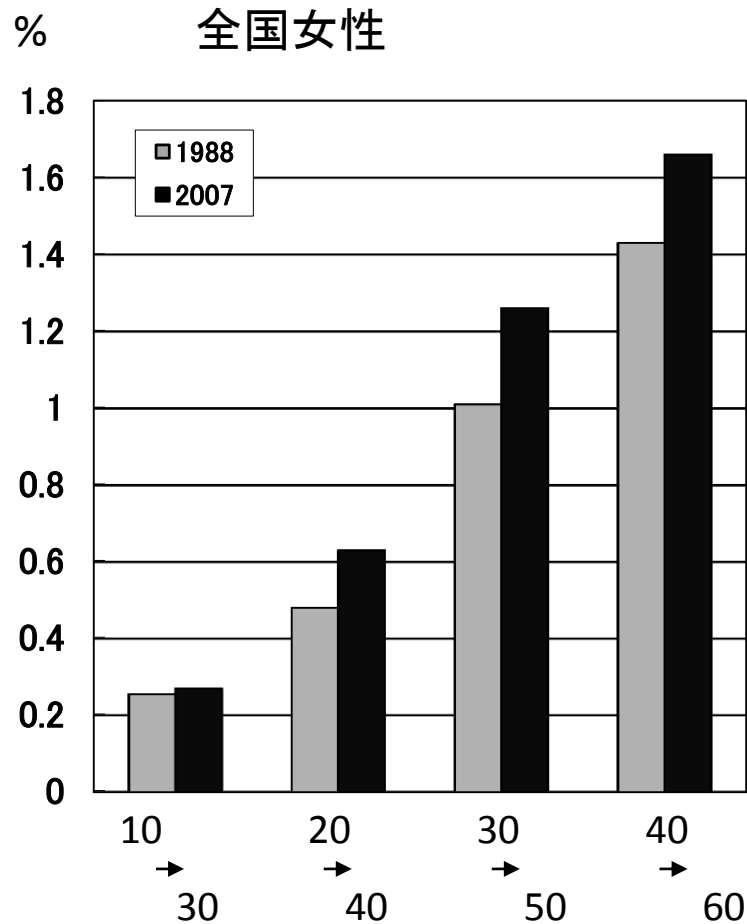


1988 データ：平成2年度 厚生省「HTLV-1キャリアの実態把握に関する研究」

橋本修二、西岡久壽弥ら

2006/7データ：「本邦におけるHTLV-1 感染及び関連疾患の実態調査と総合対策」
(山口班)

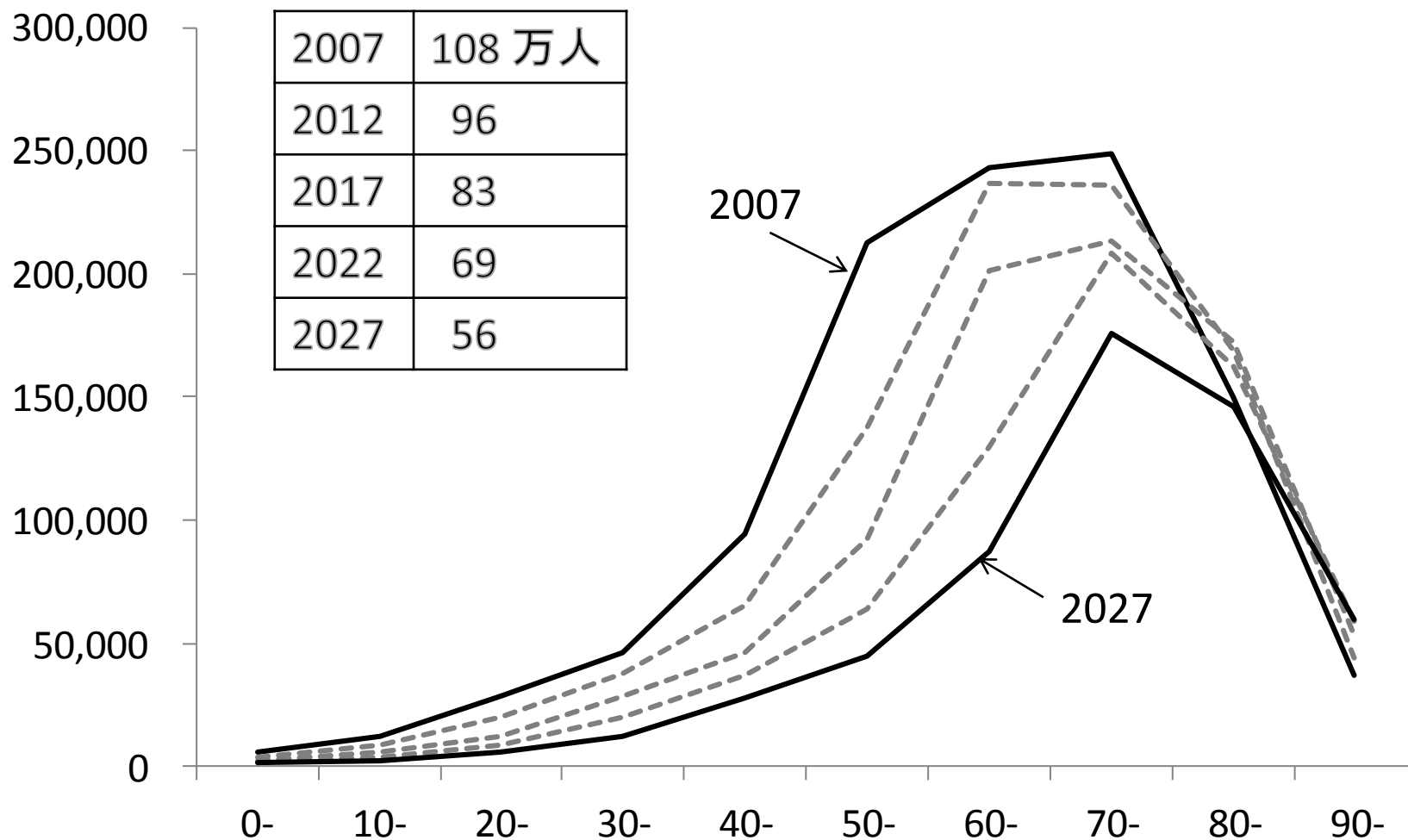
同一世代の20年間のキャリア率の変化



1988 データ：平成2年度 厚生省「HTLV-1キャリアの実態把握に関する研究」
橋本修二、西岡久壽弥ら

2006/7データ：「本邦におけるHTLV-1 感染及び関連疾患の実態調査と総合対策」
(山口班)

キャリア数の推移の予想



まとめ

- 全国の全年齢でのキャリア率は 0.85 %、キャリア数は 108 万人と推定され、20 年間に10%減少した
- キャリアは高年齢域に偏り、50~79 歳の範囲に70 万人が含まれる
- 高年齢に偏った分布は出生コホート効果による
- キャリアの46%は九州・沖縄に居住している
- 20 年前と比較し、キャリアは九州で減少、関東地方で増加し、全国に拡散している
- 予防対策が継続された場合、20 年後にキャリア数はほぼ半減する